

子ども子育て住民会議

日時 令和2年11月6日 18時～20時
 会場 榎町地域センター 多目的ホール
 テーマ 「どうしたらいいの？子育ての悩み」
 講師 榎町子ども家庭支援センター古閑館長
 参加者 17名+7名(スタッフ)



中村榎地区町連会長
 にお話を伺いました。



Q この会議を開催されたきっかけは？

元々、「子ども虐待防止会議」として誕生した会議では、過去2回、事例を基に虐待が生まれる経緯や地域ができることについて学んできました。

その中で気づいたのは、日常の子育てにこそ、地域の見守りの目が大事だということです。

そこで、令和2年度は、子育て世代の参加者を増やし多世代で地域における子育ての課題を共有することを目的に、会議名を「子ども・子育て住民会議」に変更して開催いたしました。

コロナ感染状況を踏まえ、落ち着いた時期を見ながら、感染防止策を徹底して実施しました。

Q コロナ禍の中での開催で、気づけたことや工夫した点は？

消毒、検温、換気を徹底することはもちろん、参加定員も半分にするなど、感染対策に万全を期して開催しました。参加できなかった方のために、古閑館長のお話を撮影し、いつでも視聴できるようにDVDを制作しました。

さらに、会議内では「緊急時、すぐに作れる子ども用マスク」の作り方をご紹介、おうちでも作れるように材料セットをお渡し、皆さんに喜んでいただきました。



Q 開催してみて、いかがでしたか？

グループでの話し合いで、子育てが終わった方も子育てへの関心が高く、地域みんなで育むことが大事だというお話をされる等、地域のつながりを再認識した会議になったと思っています。

子育て家庭の悩みを聞いて、「初めて気づいた」「普段からちょっと話せる関係があれば」等、地域の課題として共有できたことも大きな成果でした。コロナ禍だからこそ、やり方を工夫して、地域でできることを重ねたいと思います。地域活動を絶やさないと、あきらめない。それが、地域の絆づくりにつながると信じています。

参加された方の声 ～アンケートより～

- 古閑館長のお話は具体的で、とてもわかりやすかった。子どもの叱り方をしっかり考えることが大事だと気づきました。
- もっと多くの子育て世代に参加してほしいと思います。
- 「体罰などによらない子育てハンドブック」がとてもよい内容で、近所の子育て中の方にあげようと思います。

